

都市・地域交通戦略の評価指標の検証

戦略目標	目標が達成された姿	評価指標	指標の説明	計画策定時		5年後の目標値	令和5年度時点	10年後の目標値	評価指標の検証	関連性が特に高い施策
目標1 安全・安心して歩いている駅周辺地区・駅前空間の形成	歩行者の安全・安心が守られている	①歩行者交通環境の満足度	駅周辺の利用者ヒアリング調査（約400人）で、「とても歩きやすい」「歩きやすい」と回答した割合（%）。（※市独自調査）	H29	歩きやすい 31%	歩きやすい 37%	歩きやすい 62%	歩きやすい 65%以上	・市道4-159号及び分梅通りの整備の成果 ・コロナ禍における通勤者等の減による歩行者交通量の減の影響	施策1-6 施策2-3
			10年後にはこの割合を増加させ、「とても歩きやすい」「歩きやすい」の割合を65%以上とすることを目指します。							
		②歩行者交通事故の件数	分倍河原駅周辺地区内における直近5年間の歩行者交通事故件数の年平均値（件/年）（※警視庁資料） 10年後には、この件数を0件にすることを目指します。	H24～H28平均	2.2件	0件	1.4件 (H30～R4平均)	0件	・駅周辺の基盤整備を推進 ・駅周辺では自転車と歩行者の事故があり、自転車の押し歩き推奨が必要	施策1-7
	【追加検討指標】 通路の歩行者通行密度	こ線橋（南北自由通路）入口付近におけるピーク時の歩行者通行密度（人/m・分） ※目標値は、フルーインのサービス水準より				ピーク時： 510人/10分/3.0m =17.0人/分・m	ピーク時： 15.0人/分・m以下 (想定622人/10分)	【追加理由】商店街の歩行者数と連動した基盤整備による歩きやすさを数値化する	施策1-1 施策1-2	
回遊性が高まり、にぎわいが広がっている	③商店街の歩行者数	歩行者交通量調査（平日14時間調査）結果における駅北側の商店街歩行者通行量（人：14時間）（※市独自調査）	H28	18,004人 (平日6:30～20:30)	3.5%以上の増加 (約18,600人)	4.0%の減少 (17,290人)	10%以上の増加 (約19,800人)	・コロナ禍での通勤者等の減少で、歩行者数が減少しているため、引き続きモニタリングが必要	施策1-1	
		10年後には、分倍河原駅周辺の人口増加（7%）に加え、商店街へ買い物客を誘導（3%）すること等により、商店街の歩行者数を10%以上増加させることを目指します。								
目標2 安全・便利に利用でき、歩行者と共存し得る自転車利用環境の充実	駅周辺に安全に自転車でアクセスできる	④自転車駐車場利用の状況	分倍河原駅周辺の市営自転車駐車場の定期待ち人数（人）及び一日平均利用率（%）（※市資料：定期待ち人数及び自転車駐車場の一日平均利用率）	H29	待ち人数：200人 利用率：29%（北）：114%（北第2）：108%（南） ※利用率は一時＋定期	待ち人数：0人 各駐車場の利用率：75%以上に平準化	待ち人数：79人（南） 利用率：27%（北）：107%（北第2）：95%（南）	待ち人数：0人 各駐車場の利用率：75%以上に平準化	・コロナ禍における通勤者等の減による自転車交通量の減の影響 ・施策の推進及び駅北自転車駐車場の利用率向上等の取組みが必要	施策2-2
			整備が完了する5年後には、自転車駐車場を適正に再配置し、かつ、必要な規模を確保するとともに、利用率の平準化を図ることにより、定期利用の待ち人数をゼロとし、かつ、それぞれの駐車場の利用率を市の平均利用率よりも高い、75%以上とすることを目指します。							
	歩行者と共存して、自転車が利用されている	①歩行者交通環境の満足度	<再掲>							
【追加検討指標】 商店街の自転車数			市実施の自転車交通量調査結果における商店街への自転車押し歩きを除く、自転車の乗入れ数。（※市独自調査、11月頃実施予定）				-%	乗入れ数の減少	【追加理由】自転車交通に係る指標により、自転車押し歩きの達成度や歩行者の歩きやすさを評価する	施策1-4 施策2-3
目標3 利便性・快適性・分かりやすさを備えた駅・交通基盤への改良	便利・快適に公共交通等が利用できる	⑤自駅乗降客数	歩行者交通量調査（始発～終電）結果における駅乗降客数（※乗換客数を含まない）（人）（※市独自調査）	H29	42,617人	3.5%以上の増加 (約44,100人)	20.5%の減少 (33,901人)	10%以上の増加 (約46,900人)	・コロナ禍での通勤者等の減少で、駅乗降客数が減少しているため、引き続きモニタリングが必要	施策3-1
			10年後には、分倍河原駅周辺の人口増加（7%）に加え、駅改良や交通基盤整備等、公共交通によるアクセス性の向上とともに、分倍河原駅周辺の商店街等の機能強化（3%）を図ることにより、分倍河原駅の自駅乗降客数を10%以上増加させることを目指します。							
		⑥適合していないスロープの箇所数	「府中市福祉のまちづくり条例」に定める整備基準のスロープ勾配限度を満たさないスロープ箇所数（か所）（※市資料）	H29	2か所	2か所	2か所	0か所	・駅周辺の基盤整備を推進	施策1-1
			10年後には、鉄道とバス・タクシーの乗り継ぎ経路におけるバリアフリー環境を完全に整えることを目指します。							